

特集

「第36回東京食肉市場まつり」開催



べこ大モPR



▲試食コーナーは大行列



▲浅川町アサマルバーガーが登場



▲たくさんの来場者でにぎわいました



▲内堀県知事によるあいさつの様子



▲こめ王様とのじゃんけん大会



「東京食肉市場まつり」が、平成29年10月14日(土)～15日(日)にかけて、品川の東京都中央卸売市場食肉市場にて盛大に開催されました。

「東京食肉市場まつり」は、昭和57年に開催された「第1回部分肉フェア」が由来となります。回数を重ねるとに首都圏からの参加者も増え、マスコミ報道もあつて来場者が数万人単位となるイベントへと成長し、今後更なる拡大が期待されます。

この「東京食肉市場まつり」は、東京食肉市場へ肉牛を出荷する畜産主産県が当番制で協賛県となります。今年には福島県が協賛県ということ、福島県、JAグループ福島、JA福島中央会、農林中央金庫福島支店、(公社)福島県畜産振興協会、(公社)全国

ナーは早々に満員となり、福島牛食肉販売コーナーでは、あまりの列で入場制限がかかるお店もありました。

福島県からはJAグループ福島をはじめ、(株)松本製菓や福島県酒造協同組合、浅川町商工会、からあげ味工房、森藤食品工業(株)、(株)香精、(有)まいる、(株)ハム工房都路が参加し、特産品の販売をおこないました。お昼ときには各コーナーからはお客様呼び込む大きな声が続絶えることなく、特に(株)松本製菓の「100円どらやき」には女性や子供が、浅川町商工会の「アサマルバーガー」やからあげ味工房の「伊達鶏唐揚げ」には老若男女問わず、長蛇の行列が見られ、閉会を待たずに完売するほどとなりました。

福島県をPRするメインステージでは、相馬野馬追の「法螺貝吹奏」、福島県を代表する漫才コンビ「母心」、フラガールのOGなどが所属するハーラウラウラーナニの「フラシヨ」、ウルトラセブン、和牛登録協会福島県支部など、関係機関が参加して「東京食肉市場まつり福島県実行委員会」を設立し、「福島牛の風評被害払拭」と「首都圏消費者への福島県産畜産物の消費拡大」のため、入念な準備のもとに開催に備えてまいりました。

当日の天気は快晴とはなりませんでしたが、雨がちらつくなかでも、早朝からお客様の長蛇の列が並び、先頭のお客様は朝6時には並んでいました。また、購入するお肉のために小さきまざまなクーラーボックスを持参するお客様も多く、イベントに対する期待の大きさが伺えました。10時の開会時間になると、一斉に会場内にお客様がなだれ込み、福島牛の無料試食コー

ウルトラマンコスモスショー」など様々な催し物に多くのお客様が詰めかけました。「母心」の方言丸出しの演出に会場は大きな笑いに包まれ、「ウルトラセブン・ウルトラコスモス握手会」では、子供連れの家族だけでなく、大人のお客様も交じって長蛇の列ができ、ウルトラマン人気健在でありました。また、メインステージのイベント進行はラジオ福島の深野健司アナウンサーが務め、絶妙のタイミングと楽しい会話で来場したお客様のほか、出演者や事務局もふくめてイベントを盛り上げました。

帰り足のお客様は、みな満足げな表情で、中には帰りがたがらない子供に手を焼く家族の姿や、重そうなクーラーボックスを休みながら苦労して持ち帰るお客様の姿も見られました。今回の「東京食肉市場まつり」は、2日間に来場者2万2千人を数え、盛況のうちに幕を閉じました。